



イエス団東日本大震災救援対策本部 活動報告書

発行所: 社会福祉法人・学校法人イエス団 東日本大震災救援対策本部

発行者: 対策本部長 平田 義

〒651-0076 神戸市中央区吾妻通 5-2-20 TEL:078-221-9565 FAX:078-221-9566

http://www.jesusband.jp e-mail: saigai-sien@jesusband.jp

vol. 2

2011/9/15

イエス団東日本大震災救援対策の働きにご理解、ご協力いただき厚く御礼申し上げます。

3月11日の未曾有の大震災発生から、間もなく半年が経とうております。この半年間被災地では、悲しみに打ちひしがれるなか、復興への力強い一歩を踏み出されておられますが、いまなお避難生活を余儀なくされておられる方々がたくさんおられ、私たちイエス団では、微力ながらも息の長い支援活動にご協力させていただいております。

今回は私たちイエス団の各施設で取り組んでいる活動内容を中心にご報告させていただきます。

～ 活動一覧(9月15日現在) ～

イエス団施設名	活動(支援)場所	活動日(期間)	活動内容
・愛隣デイサービスセンター	①宮城県石巻市	・4月4日～10日	障がい者生活支援、炊き出し、引っ越し手伝い
		・4月20日～27日	
		・6月3日～4日	
		・6月18日～19日	
	②福島県猪苗代町	・6月23日～30日	障がい児・者相談支援
		・8月1日～6日	
		・8月22日～27日	
③宮城県仙台市 ・ブラッシュアップ研修 ・向島ほっこりフェスタ ・あいりんまつり	③宮城県仙台市	・9月7日～10日	被災者支援コンサート 被災障がい者施設製品販売
		・6月17日～18日	
		・6月19日	
		・7月9日	
		・7月2日	
・馬見労働保育園 ・ガーデンエルロイ	①宮城県石巻市	・4月7日～7月2日	保育備品を収集し、被災された保育園・施設へ送付 泥だし、瓦礫撤去等、日常生活への復旧作業
		・5月10日～14日	
・賀川記念館	④宮城県東松島市	・5月16日～20日	賀川記念館周辺地域の救援活動報告会 被災障がい者施設製品販売 現地視察、障がい者施設支援のための情報収集 大槌町包括支援センター 支援活動 泥だし、瓦礫撤去等、日常生活への復旧作業
		・6月28日～7月2日	
		・7月5日～9日	
・本部事務局	⑤岩手県陸前高田市	・5月15日	賀川記念館周辺地域の救援活動報告会 被災障がい者施設製品販売
		・8月10日～	
・聖浄保育園	⑥岩手県宮古市	・6月18日～22日	現地視察、障がい者施設支援のための情報収集 大槌町包括支援センター 支援活動 泥だし、瓦礫撤去等、日常生活への復旧作業
		・8月4日～8日	
		・9月6日～8日	
	⑦岩手県大槌町		
	③宮城県仙台市		



～ 活 動 報 告 ～

●馬見労務保育園(奈良県広陵町)

震災直後から被災された保育園へ保育備品を送るための準備を開始。園児用テーブル・イス・靴箱・ロッカー・絵本・おもちゃ・折り紙など約 100～300名分の保育備品を、7月2日、職員や保護者のボランティア15名の方々によりトラックに積み込まれ、7月4日の午前に無事に岩手県に到着しました。

受け入れ先の日本ユニセフ協会により岩手県大槌町「吉里吉里保育園」(全流出全壊)同「大槌保育園」(天井浸水)、岩手県野田村「野田保育所」(全流出全壊)、宮城県石巻市「橋浦保育所」(床上浸水)などの保育園や子ども支援に生かされることになっています。

これまでのボランティアの皆さんはじめ多くの方々のご理解とご協力に感謝をいたします。ありがとうございました。



●愛隣デイサービスセンター(京都市)

東日本大震災関西連絡会に参加して

田中 仰

～宮城県石巻市 石巻市福祉避難所 ひたかみ園、小国の郷(仮設住宅・グループホーム)

東日本大震災関西連絡会

第10陣：2011年4月20～27日、第12陣：2011年6月3～4日、第13陣：2011年6月23～30日

4月下旬から6月下旬にかけて3回の被災地支援に関わる機会がありました。

第10陣では主に福祉避難所にての入浴も含めた介助・掃除・夜勤が中心でした。もちろん、毎日のように関わる利用者・家族・職員は被災者であり、一週間という短い時間でしたが、3月11日のことを聞く機会もありました。その話はあくまでも想像でしか考えられない世界でしたが、被災者の生の声はとても現実的でした。被災者にとってはそれぞれの3月11日があり、今の避難所での生活がある。そのことが、僕の胸に強く打ちつけられました。又、ボランティアがどこまで利用者や家族と関われるのか？どこまでのことが求められたことなのか？それを探るように過ごしていました。

第12陣では、目的が「炊き出し」ととても明確だったこともあり、被災地での支援後は変な達成感が自分の中にありました。「これで終わりなのか？」「まだ避難所生活は続いている」「津波の跡はどうなった？」「復興は？」など、自分に問いかけながら京都に戻りました。

第13陣では、福祉避難所から仮設住宅・グループホームへの引っ越しが目的でした。日中は主に仮設住宅開所式準備・片付け、仮設住宅がある敷地内の駐車場整備、仮設住宅に設置する靴箱作り、ウッドデッキ搬送などの裏方作業が主な仕事でした。石巻での津波跡の状況は、津波によって流された車や船、道路の端によせられていた瓦礫は撤去され、復興を感じさせられる様子を伺うことができました。しかし、女川町へ行くと2ヶ月前の石巻の状況と変わらない様子でした。

3回の被災地支援を通し、どのようなボランティアが現地では必要なのかを考えさせられました。介護職員が足りないからそのような人材をボランティアとして派遣をするだけでなく、どんな状況でも動ける人材が必要だったと感じました。今後も、一日でも早い復興を祈りながら、僕たちができることを探り行動していきたいと思います。



●ガーデンエルロイ(東大阪市)

地元の東大阪市社会福協議会主催の被災地支援活動ボランティアバス4班に、合計6名の職員が参加させていただきました。現地では、強烈な異臭とさまざまな物が散乱するすさまじい光景が広がる中、10代から60代の方々と一緒に家屋や道路、田畑の瓦礫撤去や復旧作業の活動をさせていただきました。

作業開始当初は散乱する物を一つ一つ手に取り、「これを使っておられた方は、今どうされているんだろうか」との思いが頭をよぎり、なかなか作業に集中できませんでしたが、そんな中でも被災地の方々のがんばっておられる姿を見て、与



えられた作業を一生懸命に取り組ませていただきました。

被災地では、まだまだ復興の目途が立たない中で私たちに出来ることは、その場限りではなく、今後も確かな情報の中で、様々な支援を続けていくことだと思います。このボランティア活動で感じたことを忘れることなく、人に伝えていくこと、現地に行けなくても出来ることを園全体で取り組んで行きたいと思います。そして、被災地が少しでも早く復興されることを心から願っています。

●賀川記念館(神戸市)

～東日本大震災と ともに生きる 生田川流域の集い～

5月15日、賀川記念館が呼びかけ人となり、生田川流域で東日本大震災の救援や支援にさまざまな活動をしている人たちが集まり、地域とともに生きる、すぐ隣りの人たちが、東日本大震災に向けてどのような取り組みをされているのかを共有しあうときを設けました。いくつかの団体に具体的な報告をしていただき、また、当日ほかのプログラムがあつて参加できないところには、概要を提出してもらおうようお願いをいたしました。

報告は、予め準備をお願いしていた中央区社会福祉協議会／棚野恭範さん、中央消防署／和田章夫さん、神戸 YMCA／小澤昌甲さん、神戸 YWCA／寺内真子さん、イエス団／祐村 明さん、賀川記念館／賀川督明さんが行いました。

続いて参加者からは、えんぴつの家の松村敏明さんより、障害を持つ方々への支援報告。伊吹三樹雄さんより、新生田川共生会では「神戸国際支援機構」や「NPO 法人 フードバンク関西」を通じて救援活動を。三木市の長谷田克彦さんからは、個人ボランティアの活動報告が紹介されました。

会場の賀川記念館には、生田川流域で生活や活動をしており、さまざまなポジションで東日本を支え、震災救援に心を砕いている方々、また、新たな地域づくりに関心を持っておられる人たちが集まりました。ひとつの地域の中で所属やポジションが違いながら、ともに東日本を思う気持ちが同じことがよくわかりました。

最後に、全員の自己紹介、意見交流をしました。

災害時に大きな被害を受けるのは高齢者、障がい者、児童 日頃からの備えが大切です。障がい者の状況はなかなかつかむことができません、復興に向けて、障がい者自らが声を上げる運動を育てていくことが必要でしょう。子どもが安心して遊べる町に復旧することを願います。神戸での経験を活かした息の長い支援活動をみんなで一緒に考えていきましょう。などの意見が交わされ、

これをきっかけに、さまざまなテーマに向き合うテーブルづくりへと広がることが期待される会となりました。



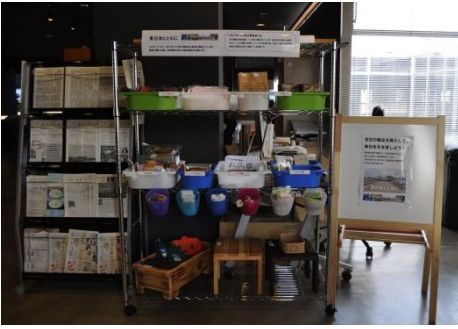
岩手県宮古市を訪問 (馬場一郎)

2011年6月18日(土)から22日(水)まで、岩手県宮古市と盛岡市に行ってきました。今回は私が所属している西宮ワイズメンズクラブ(YMCAのサポートクラブ)からの派遣で、クラブの2名といっしょに車で行きました。被災地支援をどのように行うのか、また他団体とどのように協働していくのか、1年から3年のスパンで考えられるような計画をつくるために現地へ赴き、現地の方々の声を聴き、気持ちを受け止め、今後につなげていきたいという思いからの訪問でした。

岩手県には盛岡 YMCA があり、その盛岡 YMCA の働きにより、宮古市の日本基督教団宮古教会を拠点にボランティアセンターを立ち上げ、救援活動を行っています。私たちは現地到着後、持って行った支援物資(折りたたみ自転車3台、お米、長靴やカッターシャツ、タオル...)を届け、現地ディレクターのアドバイスで、現地の商店街(被災され、なんとか再開にこぎつけた商店)で、必要な支援物資(電機ストーブ6台、扇風機8台、ポット、草履など)を購入し、仮設へ届けました。

私たちは、宮古教会員の方からの情報をもとに、現地の障がい者施設が組織する「いきいきフェア実行委員会」の責任者と出会うことができ、宮古市の障がい者施設でつくる製品を神戸で販売協力することで合意ができました。いくつかの施設を訪問し、施設長と話をさせていただき、販売経路が絶たれたり、売り上げが落ち込んだりしている現状をお聞きし、少しでも販売促進に協力できたらと考えました。現地の窓口を「いきいきフェア実行委員会」、神戸の窓口を賀川記念館とし、やり取りをシンプルにして、事務的な作業や費用を簡素化し、賀川記念館の商品を持ち出して





もらってYMCAや他団体のバザーや催し等でも販売していきたいと思っています。

現地の障がい者施設でつくる実行委員会、YMCA、そしてイエス団が協働して、息の長い現地とのつながりを持っていきたい。そして小さな取り組みですが、顔の見える関係を保ちつつ、支援を継続していきたいと思います。賀川記念館にお越しの時は、どうぞ4階を覗いて、そして買って帰ってください。

～ 募 金 状 況 ～

「イエス団震災救援対策本部」ではイエス団関係各所に対し、被災された方々への救援のための活動資金や義援金のため1千万円を目標金額とし募金活動を行っております。引き続きご協力ください。また、現在までに集まりました募金状況をお知らせいたします。これまでに集まった募金 **93口 ¥6,347,347-**

(9月10日現在)

目標の1,000万円まで、¥3,652,653-

〈以下に募金いただきました方々に感謝の意をもって掲載させていただきます。(6月23日～9月10日現在)〉

祐村 明、友田 洋子、中塚 敦子、上内 鏡子、池本 正人、好崎 志保、真下 謙、杉の子保育園、天国屋カフェ、桃陵乳児保育園・桃陵保育園あゆみの会、桃陵乳児保育園、桃陵保育園、宇山光の子保育園、甲子園二葉幼稚園、賀川記念館、真愛ホーム及び職員一同、天使保育園、天使虹の園、天使ベビーセンター、四貫島友隣館、聖浄保育園及び保護者

【順不同、敬称略】

※記載に関しては、万全を期しておりますが万が一記載漏れがございましたら上記までご連絡ください。

たくさんのご支援をいただき感謝申し上げます。今後も息の長い支援をさせていただくため、目標金額まで継続し募金活動を行っていききたいと思いますので、引き続きご協力をお願い申し上げます。

【募金振込先】

・郵便（ゆうちょ銀行）振替口座 口座番号：01140-8-75472 加入者名：社会福祉法人イエス団

*郵便振替の場合は通信欄に、「東日本大震災救援募金」と明記してください。

・三井住友銀行 三宮支店 普通預金：9206516 口座名：社会福祉法人イエス団

ミッションステートメント2009

わたしたちイエス団の実践は、1909年12月24日の賀川豊彦の献身に始まる。そして、イエスの愛に倣い、互いに仕えあい、社会悪と闘い、新しい社会を目指して多くの協働者とともに今日まで歩み続けてきた。この歴史を検証し、働きを引き継ぎ、今、わたしたちはイエスに倣って生きる。

わたしたちは、いのちが大切にされる社会をつくりだす
わたしたちは、隣り人と共に生きる社会をつくりだす
わたしたちは、違いを認め合える社会をつくりだす
わたしたちは、自然が大切にされる社会をつくりだす
わたしたちは、平和をつくりだす

2009年12月24日
社会福祉法人イエス団
学校法人イエス団